



青年農業者と東北農政局との意見交換会を開催しました

東北農政局は令和6年2月8日（木）に、TKPガーデンシティ仙台勾当台（仙台市）において「青年農業者と東北農政局との意見交換会」を開催しました。

この意見交換会には、東北地域で農業青年クラブの会長等を務める青年農業者7名にご出席いただき、自身の農業経営の特徴や農業青年クラブでの取組を踏まえた課題や、新規就農者を呼び込むための方策をテーマに、活発な意見交換を行いました。



＜意見交換会の様子＞



＜出席された皆さんと前島東北農政局長ほか幹部職員＞

【出席した青年農業者の主なご意見】

- ・食育や農業体験、観光と農業のつながりが国民が農業に関心を持つきっかけになる。特に1年間の栽培過程を理解できるような農業体験が効果的と思う。
- ・就農する前に、農作物の売り方、経理、農業機械の維持・管理にかかる知識等を得られるとよい。
- ・新規就農者にとっては農地確保が大きな課題。農地バンクの周知やサポート体制の構築が重要。
- ・新規就農者を定着させるためには、離農者が定着できなかった理由を知る必要があると思う。

問合せ先：経営・事業支援部 経営支援課 022-221-6217

◆◆◆◆ 農政トピックス ◆◆◆◆



令和6年1月29日に、次の2つの産品が地理的表示（GI）に登録され、東北のGI登録産品は34産品となりました。

◆「青森の黒にんにく」〔生産地〕青森県



白地図素材 国土地理院地図
(<https://maps.gsi.go.jp/>)

https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/titekizaisan/toroku_sanpin.html#r50131



◆「西わらび」〔生産地〕岩手県和賀郡西和賀町



白地図素材 CraftMAP
(<http://www.craftmap.box-i.net/>)

https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/titekizaisan/toroku_sanpin.html#r50131



「食べて応援しよう！in仙台2024」を開催します！

開催日時

- ・令和6年3月16日（土）
10時00分～16時00分
- ・令和6年3月17日（日）
10時00分～15時00分

場所 勾当台公園市民広場
(仙台市青葉区)



東日本大震災の被災地3県（岩手県・宮城県・福島県）の「おいしいもの」を販売する、震災復興応援イベントです！東北農政局の食の応援大使「ORI☆姫隊」や奥州仙台おもてなし集団「伊達武将隊」による歌や踊りの楽しいステージ、むすび丸、ホヤぼーやなどの人気キャラクター達も応援に来ます！お買い物に応じて、桃グミや牛乳普及グッズのエコバックなどがもらえるスタンプラリーやクイズラリー、野菜摂取量測定会（無料）もあります。アンケート回答者へは牛乳をプレゼント!!（いずれも数量限定 無くなり次第終了）

アンケートに
答えて牛乳
をもらおう！



●食べて応援しよう！in仙台の詳細はHPをご覧ください。
<https://www.maff.go.jp/tohoku/press/keiei/syokuhin/240214.html>

農作業安全推進情報

重要推進テーマ

学ぼう！正しい安全知識 ～機械作業の安全対策と熱中症の予防策～

●農林水産省は、県段階・地域段階で「農作業安全に関する指導者」が中心となった農業機械作業の安全対策と熱中症の予防策の講習を行うことを重点的に推進します！

●農業機械作業が原因の死亡事故は、農作業死亡事故全体の2/3近くを占めます（令和4年発生）。

- ・ほ場周辺の危険箇所確認・危険回避行動実践
- ・危険箇所の改善
- ・シートベルトとヘルメットの着用
- ・安全フレーム付きトラクターの利用

の徹底を引き続きお願いします。



農作業安全対策に関する情報は、東北農政局HPをご覧ください
https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/n_anzen/index.html



知らない野草、山菜は採らない、食べない！

例年、春先から初夏にかけて、有毒な成分を含む植物を、食べても安全な山菜や野草と間違えて食べてしまうことによる食中毒が数多く起きています。

間違いなく食用だと判断できない植物は、絶対に採らない、食べない、売らない、人にあげないようにお願いします。



スイセン
(ニラと誤認)



コルチカム (イサワソウ)
(行者ニンニクやワイルドと誤認)

野草、山菜に関する情報はコチラ
https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/rinsanbutsu/natural_toxins.html



高病原性鳥インフルエンザに注意！ 渡り鳥シーズンへの備え

◎ 防鳥ネットや壁に穴はあいていませんか？

農場内の整理・整頓を行い、一見隙間がなさそうな家きん舎の侵入口や、普段目が届きにくい場所などを再点検しましょう。

◎ 家きん舎の周辺・出入口の消毒を確実に実施していますか？

消毒等が適切にできているか、動線が交差していないか確認し、全ての従業員・外来事業者で衛生対策を徹底しましょう。

家きん舎の周囲には、**ウイルスの侵入経路が多く存在しています**。人・車両、野生動物を介したウイルスの侵入防止のため、今一度、**点検・確認**をお願いします。

鳥インフルエンザに関する情報はコチラ

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html>



「豚熱」・「アフリカ豚熱」の侵入防止！

豚熱は、東北では令和2年12月に山形県の農場、令和3年12月に宮城県の2農場で発生しました。また、野生イノシシの豚熱感染は、これまで青森県を除く東北各県で確認されています。

近隣国では、豚熱及びアフリカ豚熱の発生が継続しており、侵入リスクが高い状況が続いていますので衛生管理を徹底しましょう。

豚熱情報はコチラ

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/index.html>



アフリカ豚熱情報はコチラ

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/asf.html>



野生イノシシの豚熱検査情報情報はコチラ

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/wildboar_map.html



↑目的の二次元バーコードがうまく読み込めない場合は、指などで不要な二次元バーコードを隠した状態で読み込んでください。

～大豆生産力の向上を目指して～「東北大豆セミナー」開催

東北地域は、作付面積で全国の約4分の1を占める大豆の一大産地ですが、平均収量が長年全国平均を20kg程度下回り、平成20年以降は10a当たり140kg前後となっているなどの課題があります。

そこで、大豆生産者等の意識及び技術力向上を図るため、令和6年1月26日(金)に「東北大豆セミナー」を開催しました。今年は岩手県に着目した内容を中心とし、350名程度の方に参加いただきました。

その中で、大豆生産の優良事例紹介として講演した岩手県奥州市の農事組合法人 都鳥(とどり) 代表理事組合長の千田弘氏(第51回全国豆類経営改善共励会農林水産大臣賞受賞)から、大豆栽培におけるブロックローテーションや排水対策、病害虫対策、収穫作業等で工夫していることについて、岩手県職員との対談形式でご発表いただきました。参加者からは「ブロックローテーションや適期作業など基本を徹底すれば高単収を目指せる良い事例と感じた」などの声があり、質疑応答も活発に行われました。



講演する都鳥の千田代表理事組合長



岩手県会場における参加者の様子

その他、有限会社平安商店様から実需者ニーズについての講演、岩手県農業研究センターから緑肥作物の効果についての講演、中日本農業研究センターから圃場水分の管理についての講演を頂きました。本セミナーの講演の資料等を公開していますので、東北農政局ホームページをご覧ください。

東北大豆セミナー

<https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/daizu/kyougikai/symposium.html>



◆「食・農ひとくち情報」の詳しい情報は、東北農政局ホームページをご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/tohoku/hitokuti/index.html>

◆「食・農ひとくち情報」の問合せ先：東北農政局企画調整室支援チーム

022-263-1111 (内線4402、4076)

